

平成 27 年度 事業報告書

自 平成 27 年 4 月 1 日
至 平成 28 年 3 月 31 日

社会福祉法人 空知の風

◇はじめに

～平成 27 年度事業の総括～

平成 27 年度は次の 5 点を重点目標として取組んで参りました。

1. 人材育成に向けた取組みの拡充
2. 増加する利用者の受入体制の整備
3. 地域生活支援の拡充
4. 地域公益事業に向けた活動の実施
5. 職員待遇の改善

1. 人材育成に向けた取組みの拡充

○人事異動や他の部署との兼務体制を実施し、職員体制の確保とお互いの部署の取組みや課題等の状況把握を行なう事で、各部署や各業務についての理解と現場対応出来る職員が増えてきております。引き続き人材の育成、増員に向けて継続して取組みます。

○他の施設とお互いの商品購入を進める内需拡大事業を通じて、職員が他の施設の取組みや技術面、商品の質を確認し、創意と工夫を学びました。また、他の施設職員との連携やネットワーク強化と人脈が広がり、当法人施設の製品が全国へ発送され、流通が拡大しております。

○実態に応じたマニュアル・ガイドラインの修正、整備を進めて来ましたが、継続して作成に向けた取組みを進めていく必要があります。

○外部研修や視察研修を進め、学んだ事を共有出来るように全体会議等において報告を実施しています。知識を向上させ現場に生かすための取組みは今後も継続する必要があります。また、外部研修に参加する機会の少ないパート職員に対して年 2 回の内部研修会を実施して基礎的事項や支援方法等の理解を深めました。

2. 増加する利用者の受入体制の整備

○日中活動事業所の整備として、たのしいどう 2 階の作業室の設置、空知総合振興局のそらかぜ食堂への挑戦、あかるいどう惣菜事業の開始により受入体制を整備しました。

○地域生活支援の暮らしの場を確保するために、桜なごみ荘、もみじ色づき荘を開所して地域生活者の受入れ体制を整備しました。

3. 地域生活支援の拡充

○地域生活支援における利用者増と住居数の増加に対応するため、パート職員の新規採用や日中活動事業所との兼務体制を実施して人員体制の確保をしました。

○地域生活する利用者の夜間支援体制として、常駐して対応する拠点を2か所設置する事で夜間における緊急時の対応や適切な人員配置の体制を整備しています。また、宿泊体験事業を実施して緊急時の受入れや将来の利用に向けて事業を推進しています。

○火災や地震、自然災害等から利用者の安全が確保されるように、毎日の点検箇所の見直し、必要な器具等の整備、避難訓練、学習会を実施しています。

○利用者の生活支援、余暇支援、社会生活支援を拡充するために町内清掃活動や募金活動、個別の嗜好に合わせた旅行の実施、ティーボール活動等を通じて利用者の暮らしの充実に向け取り組みました。

○利用者の健康管理を適切に実施するために一定年齢以上の利用者に人間ドック、がん検診を実施しました。また、健康診断の結果に伴い、必要な再検査や医師への相談を行ないました。

インフルエンザの蔓延予防のために予防接種の推進を行ないました。

○感染症や食中毒の予防策を推進し、住居の消毒を週1回実施し、手洗い、うがいを徹底して習慣化に取り組みました。

4. 地域公益事業に向けた活動の実施

○地域から空知の風が必要とされる存在になる事を目指し、地域の困り事や課題に対して町内会館の除排雪や公園清掃、地域活動を実施するとともに、今後の地域公益活動における地域の困り事と就労事業の連動を視野に入れた事業の検討を進めています。

5. 職員待遇の向上

○給与規程を改正し、正規登用、昇給、昇格、賞与、手当の増額等の待遇向上を実施しました。

○職員が自主的に希望する研修会へ参加する機会を設けたが、実施できた職員と出来なかった職員がいるため、研修情報の伝達や働きかけを強化して、可能な限り希望する研修への参加が促進される様な工夫を実施していきたいと思えます。

■役員会運営

平成27年度は役員改選期に当たり、今後の国の動向や経営基盤の強化、事業振興を進めていく上で役員の選任については慎重審議を行ない、任期満了をもって数名の役員の入れ替わりがありました。その他の法人運営に係る役員会運営についても予算執行や各議案について活発かつ慎重な審議を行ない、事業運営を滞りなく実施する事が出来ました。

また、監事監査においては、四半期毎に会計監査、運営監査を実施し、実務上の改善事項について助言を頂き運営改善に繋がっております。

法人経営と会計については、公認会計士による外部監査も毎月継続しており、適正な会計処理と経営における評価をして頂いています。

○理事会の開催状況について

平成27年度	第1回	理事会	平成27年 5月23日	(出席理事6名・監事2名)
平成27年度	第2回	理事会	平成27年10月31日	(出席理事6名・監事2名)
平成27年度	第3回	理事会	平成27年12月26日	(出席理事6名・監事2名)
平成27年度	第4回	理事会	平成28年 2月20日	(出席理事6名・監事2名)
平成27年度	第5回	理事会	平成28年 2月25日	(出席理事6名・監事2名)
平成27年度	第6回	理事会	平成28年 3月19日	(出席理事6名・監事2名)

○評議員会の開催状況について

平成27年度	第1回評議員会	平成27年 5月23日	(出席評議員14名・監事2名)
平成27年度	第2回評議員会	平成27年12月26日	(出席評議員14名・監事2名)
平成27年度	第3回評議員会	平成28年 2月25日	(出席評議員14名・監事2名)
平成27年度	第4回評議員会	平成28年 3月19日	(出席評議員12名・監事2名)

○監事監査の実施状況について

平成26年度	前4期及び前期決算監事監査	平成27年 5月14日	(業務・会計監査)
平成27年度	第1期監事監査	平成27年 9月11日	(業務・会計監査)
平成27年度	第2期監事監査	平成27年12月 9日	(業務・会計監査)
平成27年度	第3期監事監査	平成28年 3月 8日	(業務・会計監査)

■役員改選の状況について

平成28年2月24日の任期満了に伴い、下記の通り役員の選任を行なっております。

理事（～28. 2. 24）		理事（28. 2. 25～）	備 考
理事長 成澤 哲雄	⇒	理事長 成澤 哲雄	再任
理事 橘 文也		理事 橘 文也	再任
理事 鈴木 達美		理事 鈴木 達美	再任
理事 白戸 浩雅		理事 奥村 弘美	再任
理事 奥村 弘美		常務理事 橘 正樹	再任
常務理事 橘 正樹		理事 松田 愁司	空知の風事務局長

監事（～28. 2. 24）		監事（28. 2. 25～）	備 考
（運営）上坂 隆一	⇒	（運営）堀 利幸	再任
（会計）堀 利幸		（会計）小嶋 孝之	（有）オアシス 施設長

評議員（～28. 2. 24）		評議員（28. 2. 25～）	備 考
成澤 哲雄	⇒	成澤 哲雄	再任
橘 文也		橘 文也	再任
鈴木 達美		鈴木 達美	再任
白戸 浩雅		奥村 弘美	再任
奥村 弘美		橘 正樹	再任
橘 正樹		宮本 和昭	再任
宮本 和昭		斉藤 和幸	再任
斉藤 和幸		米川 義彦	再任
米川 義彦		小松 大記	再任
小松 大記		横田 雅之	再任
小嶋 孝之		綱渕 秀幸	岩見沢市教育研究所
佐藤 清和		窪田 秀樹	（有）エムケーボデー
宝沢 康晴		藤田 雅子	岩見沢市民生児童委員
横田 雅之		佐藤 定	空知の風

■監査の状況について

○外部監査の実施状況について（税理士法人 さくら総合会計）

平成27年度	前期3月分	平成27年	4月21日
平成27年度	前期決算分	平成27年	5月12日
平成27年度	4月5月分	平成27年	6月24日
平成27年度	6月分	平成27年	7月31日
平成27年度	7月分	平成27年	8月31日
平成27年度	8月分	平成27年	9月25日
平成27年度	9月分	平成27年	11月 4日
平成27年度	10月11月分	平成27年	12月21日
平成27年度	12月分	平成28年	1月20日
平成27年度	1月分	平成28年	2月29日
平成27年度	2月分	平成28年	3月22日

○岩見沢市による社会福祉法人指導監査について

日時：平成28年 1月27日 水曜日 午前9時30分～午後4時00分

結果：文書指導事項、口頭指導事項なし「概ね適正」

○岩見沢税務署による法人税務調査について

日時：平成27年11月4日～6日（3日間）

指摘①：「給与所得者の扶養控除等申告書」について、若干名提出を受けずに「甲」の扱いで所得税計算をしていた。

対応①：指摘後速やかに対象となる職員から提出を受けています。

指摘②：法人が作成する課税文書のうち、土地の賃貸契約書、業務委託や請負などの契約書類に印紙の貼付がされていないものがあった。

対応②：指摘を受けた書類について、税務署からの指導に基づき「印紙税不納付事実申出書」を提出して、税金を納めています。

■施設整備について

主な施設・事業所の整備としましては、グループホーム2棟を開設し、それに伴う大規模な部屋替えを行ないました。岩見沢市内に大まかに2つのエリアを設定して、より効率的に巡回支援ができるようにしております。また、5月には空知総合振興局内の食堂をプロポーザルにより受託し、「そらかぜ食堂」としてオープンしています。振興局の職員様をはじめ、来庁者に広く利用して頂いています。また、岩見沢市特有の豪雪への対応として、タイヤショベルを当法人の財産として取得すべく、残価設定リースを行ない、リース満了時に残りの価額にて購入する予定としています。

◇施設整備

☐ グループホーム桜なごみ荘の開設

☐ 開設日 平成 27 年 4 月 1 日

☐ 定員 4 名

☐ そらかぜ食堂の開業

☐ 開業日 平成 27 年 5 月 11 日

☐ 場所 岩見沢市 8 条西 5 丁目 空知総合振興局 5 階

☐ グループホームもみじ色づき荘の開設

☐ 開設日 平成 27 年 9 月 1 日

☐ 定員 5 名



そらかぜ食堂開業

◇工事

☐ 工事名 たのしいどう1階浴室改修工事

☐ 業者名 瓜生設備工業株式会社

☐ 工事費用 680,400円

☐ 助成金 544,320円（公益財団法人 大友福祉振興財団様）

☐ 工事名 たのしいどう2階トイレ改修工事

☐ 業者名 瓜生設備工業株式会社

☐ 工事費用 1,814,400円

☐ 助成金 1,000,000円（札幌馬主協会様）

◇車両整備

☐ 残価設定リース コマツミニタイヤショベルWA30

☐ 業者名 コマツ建機販売株式会社

☐ リース総額 3,500,000円

☐ 購入車両 トヨタハイエース

☐ 業者名 株式会社Bクリエイト

☐ 購入費用 550,000円



コマツミニタイヤショベル

■事故報告の状況について

□利用者さんに係る事故

- ①支援時間中の軽傷 1件（就労実習先でのやけど）通院・のち完治
②不法行為 2件（市内店舗での万引き行為）警察対応

□車両による事故件数

- ①人身事故 0件
②単独接触事故 4件（雪壁への接触、施設・建物などへの接触等）

■行事の実施状況について（各施設・事業所合同）

日 時	行 事 名
平成 27 年 4 月 3 日	事業開始式
平成 27 年 6 月 28 日	第 4 回地域交流祭※法人行事
平成 27 年 9 月 12 日	第 4 回レク大会
平成 27 年 11 月 6 日～ 7 日	利用者温泉旅行 1 班(ニセコ方面)
平成 27 年 11 月 13 日～14 日	利用者温泉旅行 2 班(旭川方面)
平成 27 年 12 月 26 日	法人忘年会※法人行事
平成 27 年 12 月 28 日	利用者忘年会
平成 28 年 1 月 22 日	新成人のお祝い会



地域交流祭



レク大会



利用者忘年会

■渉外活動（平成 27 年度）

渉外活動	職 名	氏 名
空知知的しょうがい福祉協会	理 事	橘・松田・横田
	幹 事	川村・倉増
・岩見沢市障がい者福祉施策懇話会 ・岩見沢市障がい者サポート協議会	委 員	橘
岩見沢市障がい者サポート協議会 相談支援部会	部会長	山下
NPO 法人ふらっと	理 事	橘
	会員・委員	橘・横田・堀・中山
日本知的障害者福祉協会 生産活動・就労支援部会全国大会	実行委員	橘・横田

■役員・職員 外部研修参加について

職員 研修参加一覧

No.1

日 時	研修名	主 催	場 所	参加人数
4月9日	平成27年度税制改正ポイントと実務対応	宏栄会	札幌市	2名
4月22～23日	第6回障害者就労支援施設の‘食を通じて新しいビジネスワーク’を考える実践研修会	社会福祉法人 青葉仁会	奈良県	3名
4月28日	平成26年度 空知知的しょうがい福祉協会理事会	空知知的しょうがい福祉協会	岩見沢市	3名
5月19～20日	平成27年度全道施設長セミナー	北海道知的障がい福祉協会	札幌市	3名
6月10～11日	平成27度北海道社会就労センター協議会 第1回総会・職員研修会	北海道社会就労センター	札幌市	4名
6月22日	労働安全衛生法に基づくストレスチェック制度対策セミナー	さくら総合会計	札幌市	1名
6月29～30日	平成27年度全国知的障害関係施設長等会議	日本知的障害者福祉協会	東京都	2名
6月10日	障がい福祉サービス等初任者研修in岩見沢	地域生活支援センターあへち	岩見沢市	1名
6月23日	空知知的しょうがい福祉協会 平成27年度総会及び職員研修会 I	空知知的しょうがい福祉協会	深川市	4名
7月6日	コーチングセミナー	北海道民間社会福祉事業職員共済会	札幌市	1名
8月19～21日	セルフ協 第20期 リーダー養成ゼミナール	全国社会就労センター協議会	東京都	1名
7月29日	平成27年度 権利擁護セミナー	北海道知的障がい福祉協会	札幌市	2名
6月22～23日	しょうがい者就労支援 北海道ビジネスセミナー	食ものネットワーク実践研究会	道内視察	2名
7月28～30日	平成27年度障がい者虐待防止・権利擁護指導者養成講座	空知知的しょうがい福祉協会	札幌市	1名
6月17.18日 9月8～10日	平成27年度相談支援従事者研修	北海道地域ケアマネジメントネットワーク	札幌市	1名
7月13日	平成27年度 共済業務新任者研修会	北海道民間社会福祉事業職員共済会	札幌市	1名
7月22～24日	平成27年度 全国社会就労センター総合研究大会(長崎大会)	全国社会就労センター協議会	長崎県	2名
8月19日	平成27年度メンタルヘルス講習会	北海道民間社会福祉事業職員共済会	札幌市	1名
7月14日	株式会社田中食品興業所技術講習会	株式会社熊谷商店	旭川市	1名
7月24日	空知しょうがい者就業・生活支援センター「ひびき」連絡会議	社会福祉法人北海道光生会 爽やかネットワーク	美唄市	2名
9月14日	コミュニケーションセミナー	北海道民間社会福祉事業職員共済会	札幌市	1名
9月16～17日	平成27年度 北海道知的障がい関係支援員研修Ⅱ	北海道知的障がい福祉協会	夕張市	4名
10月21～22日	第4回全国生産活動・就労支援部会職員研修会	日本知的障害者福祉協会	三重県	6名
9月29～30日	平成27年度社会就労センター協議会	北海道社会就労センター	札幌市	4名
10月6～7日	平成27年度全道知的障がい関係職員研究大会	北海道知的障がい福祉協会	定山溪	3名
9月16日	事例から学ぶ相談員の事故対応	あいおいニッセイ同和損害保険(株)	札幌市	2名
9月10～12日	平成27年度セルフ士会視察研修会	日本セルフ	新得町	1名
12月12日	就労支援部会専門研修会	北海道知的障がい福祉協会	札幌市	3名
10月28～29日	権利擁護伝達合同宿泊研修会	空知知的しょうがい福祉協会	沼田町	1名
11月9日	社会福祉施設職員等退職手当共済制度実務研修	北海道民間社会福祉事業職員共済会	札幌市	1名
10月23日	平成27年度北海道社会福祉法人経営青年会職場運営管理講座	北海道社会福祉法人経営者協議会	札幌市	1名
10月22日	平成27年度空知知的しょうがい福祉協会職員研修会Ⅱ	空知知的しょうがい福祉協会	滝川市	3名

日 時	研修名	主 催	場 所	参加人数
10月5～7日	平成27年度北海道サービス管理責任者研修	特定非営利活動法人	札幌市	1名
10月28日	平成27年度医療・栄養支援セミナー	北海道知的障がい福祉協会	札幌市	2名
11月19～20日	北海道消防設備協会第24回北海道江別市	北海道消防設備協会	江別市	2名
12月7日	法人役員研修	北海道社会福祉協議会	札幌市	4名
11月12日	地域支援スタッフ研修会	空知知的しょうがい福祉協会	月形町	2名
11月18日	防災担当者ミーティング	空知知的しょうがい福祉協会	岩見沢市	3名
11月26日	空知管内知的障害関係施設・学校・行政機関等連絡協議会	空知知的しょうがい福祉協会	美瑛市	2名
10月31日	平成27年度第2回ふらっと研修会	NPO法人ふらっと	岩見沢市	4名
12月3～4日	空知知的しょうがい福祉協会新任研修会	空知知的しょうがい福祉協会	南幌町	3名
12月4日	平成27年度第1回理事会及び意見交換会	空知知的しょうがい福祉協会	岩見沢市	3名
12月11日	平成27年度就労支援部会 部会協議会	北海道知的障がい福祉協会	札幌市	4名
1月21日	看板商品、人気商品を作り出す研修会	北海道社会就労センター	札幌市	3名
1月28日	全国社会就労センター協議会	全国社会就労センター協議会	東京都	1名
2月16～17日	障害者就労支援施設の食を通じて新しいビジネスネットワークを考える実践研修会	社会福祉法人白銀会	茨城県	3名
1月18日	障害者施設 食・モノネットワーク企画会議の情報交換会		愛知県名古屋	1名
1月20～22日	セルフ協 第20期リーダー養成ゼミナール(後期)	全国社会就労センター協議会	東京都	1名
2月14日	キャリアパス事業災害対策研修会	空知知的しょうがい福祉協会	奈井江町	1名
2月25～26日	第32回全国社会就労センター長研修会	全国社会就労センター協議会	広島県	2名
3月10～11日	空知知的しょうがい福祉協会「27年度宿泊幹事会」	空知知的しょうがい福祉協会	美瑛市	1名
3月14～15日	平成27年度全道施設長研修会	北海道知的障がい福祉協会	札幌市	3名
3月14日	平成27年度臨時総会	北海道知的障がい福祉協会	札幌市	3名
3月7日	全国社会就労センター協議会(セルフ協)平成27年度第5回事業振興委員会	全国社会就労センター協議会	東京都	1名
3月9～10日	平成27年度北海道社会就労センター協議会第2回総会及び職員研修	北海道社会就労センター協議会	札幌市	3名
3月26日	第31回合同入社式	岩見沢市知的障がい者職親会	岩見沢市	1名
3月28日	平成27年度空知知的しょうがい福祉協会臨時総会及び意見交換会	空知知的しょうがい福祉協会	美瑛市	3名
3月29日	平成27年度第2回ふらっと理事会	特定非営利活動法人	岩見沢市	1名
3月25日	セルフ協 第20期リーダー養成ゼミナール	全国社会就労センター協議会	東京都	1名
				計127名

※研修参加回数 58回

※役員・職員参加人数 127名(延べ人数)

■内部研修について

日 時	研修内容	講師等
平成 27 年 4 月 25 日	権利擁護・自己覚知について	橘常務理事
平成 27 年 5 月 28 日	27 年度の法人の取り組み	橘常務理事
平成 27 年 6 月 19 日	虐待防止について 国の動向について	橘常務理事
平成 27 年 7 月 9 日	世話人向け：危険予知訓練	倉増支援部長
平成 27 年 7 月 25 日	食品表示、景品表示法の改正 と対応	山下支援部長
平成 27 年 8 月 5 日	世話人向け：知的障がい概要	松田施設長
平成 27 年 10 月 13 日 14 日	パート向け研修	橘常務理事、松田事務局長
平成 27 年 12 月 23 日	外部研修報告会	廣岡、山本、川村、堀ほか
平成 28 年 1 月 14 日 15 日	パート向け研修	横田施設長、山下支援部長
平成 28 年 1 月 23 日	道外施設視察報告	橘常務理事
平成 28 年 3 月 21 日	28 年度事業計画について	橘常務理事

■苦情解決委員会について

苦情件数 1 件 要望件数 1 件 その他日常に生じる相談多数

日 時：平成 28 年 4 月 25 日（月曜日）17：00～18：30

出席者：各事業所の苦情窓口担当者（廣岡・成田・山本・中山・山下）

各事業所の苦情解決責任者（橘・横田・松田）

第 3 者委員（小松委員・小嶋委員）

会議概要：

各事業から 27 年度の苦情や要望の受付件数や、具体的な相談ケースを報告しています。利用者さん同士のトラブルから発展した要望や、スタッフの報連相ミスからの苦情がありました。すべてにおいて重大な事態には至らず、短期間で解決をしています。第 3 者委員からは、伝え方と伝わり方の違いに注意が必要であることや、対応のアフターケアがとても大切であることなど意見を頂きました。

権利擁護や虐待防止の取り組みとして、北海道知的障がい福祉協会の署名活動や、空知知的しょうがい福祉協会の権利擁護活動への参加、内部や外部の研修への参加を報告しています。

■利用者現況調べ（平成 28 年 3 月 31 日現在）

①年齢構成（単位：人）

	～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳～	合計人数
男性	4	34	14	6	5	0	0	63
女性	4	18	9	6	1	0	0	38
総数	8	52	23	12	6	0	0	101

平均年齢：男性 30.23 歳、女性 29.55 歳、全体 29.98 歳

②障害支援区分

	なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	平均区分
男性	15	6	12	20	5	5	0	2.14
女性	7	1	6	9	7	6	2	2.89
総数	22	7	18	29	12	11	2	2.43

■工賃の支払い状況（単位：円）

①工賃支給比率

事業名	資金収入額(円)	工賃総額(円)	支給人数(人)	支払比率
たのしいどう	27,217,156	9,391,800	51人	34.5%
きっちんどう	13,107,061	5,595,400	24人	42.7%
あかるいどう	7,001,048	5,225,200	20人	74.6%
全事業合計	47,325,265	20,212,400	95人	42.7%

②利用者工賃額

事業名	工賃総額(円)	支給人数	平均工賃額	うちB型 事業人数	うちB型事業平均
たのしいどう	9,391,800	51人	15,346	24人	19,029
きっちんどう	5,595,400	24人	19,428	18人	20,035
あかるいどう	5,225,200	20人	21,772	10人	29,629
全事業合計	20,212,400	95人	17,730	52人	21,416

平成27年度 たのしいどう 事業報告

1. 27年度事業の総括

5月11日に空知総合振興局の5階にある食堂の運営がスタートしました。「地産地消」、「道職員の福利厚生」、「障がいのある方達の働く場と工賃・所得の向上」という提案で無事運営の委託を受け、急ピッチでの準備、開店となりました。「そらかぜ食堂」と名付けられたこの新たな取り組みは、法人内事業所製品の販売促進、内需拡大計画推進の中で、全国の事業所製品活用の拠点として活動し、工賃向上の推進に取組みました。

生きがい・日々の楽しみという面では、ダンスなどの余暇支援の取り組みを継続し、若手スタッフを中心としたエネルギーな支援の中で、一定の成果を得ることが出来ました。



2. 実施事業

■ 就労移行支援事業	定員 6名	現員 7名
■ 就労継続支援事業B型	定員 22名	現員 27名
■ 生活介護事業	定員 12名	現員 15名
■ 短期入所事業	定員 2名／日	

3. 平成27年度の利用状況

■ たのしいどう全体（定員40名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	49	48	48	48	48	47	48	48	48	47	50	50	291	94.2%
開所日数	25	23	26	26	23	23	26	23	23	23	24	26		
延利用回数	956	876	979	965	880	865	961	895	880	867	862	982		

平均実利用数 37.6名（小数点第2位以下切り上げ）

新たに8名の方が利用開始。平成28年度の新規利用の方が3月に前倒しで通所開始しています(2名)。土曜開所を行なっている分、開所日数が多く、利用率は実人数と比較して低めに推移しています。利用率は9割を超えていますが、2月のみ9割を下回る点から、今年度も冬場の気候の影響による利用低下が発生していると思われます。

■就労移行支援事業(定員6名)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	8	8	7	8	8	8	8	8	8	8	5	7		101.8%
開所日数	25	23	26	26	23	23	26	23	23	23	24	26	291	
延利用回数	164	157	148	159	156	153	168	153	157	151	94	117	1,777	

平均実利用数 6.2名(小数点第2位以下切り上げ)

増加するB型利用者さんのニーズに対応して定員を10名から6名に減。年度途中の新規利用の方が3名、B型事業に契約変更された方が4名でした。

■就労継続支援事業B型(定員22名)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	25	24	26	25	25	24	24	24	24	24	27	27		90.6%
開所日数	25	23	26	26	23	23	26	23	23	23	24	26	291	
延利用回数	483	448	536	518	460	451	487	460	446	441	508	561	5,799	

平均実利用数 20.0名(小数点第2位以下切り上げ)

定員を20名から22名に増。受入枠にゆとりを持たせました。就労移行支援事業の利用期間満了等の理由により、契約変更を行なった方が3名で、実人数が増となっています。年度途中に1名が新規利用開始、2名が転居等の事情により退所されています。

■生活介護事業(定員12名)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	16	16	15	15	15	15	16	16	16	15	15	15		97.5%
開所日数	25	23	26	26	23	23	26	23	23	23	24	26	291	
延利用回数	309	271	295	288	264	261	306	282	277	275	260	304	3,392	

平均実利用数 11.6名(小数点第2位以下切り上げ)

年度途中より1名の方が新たに利用することとなりましたが、体調上の理由により年度途中より通所が難しくなり、退所されています。

■短期入所事業

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
延利用回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

グループホームの新設により、予め宿泊を伴う支援が分かっているケースについては、将来のことも見越してグループホーム体験を併せて行ないたいというニーズから、宿泊体験事業の利用に転換される方が多く、今年度の利用はありませんでした。

4. 取組みの概要

■利用者支援

□企業就労

企業就労にチャレンジした方達も就職から数年が経ち、自身の役割を認識し意欲的に取り組まれています。それでも担当される方の異動や部署の転換など、環境の変化により対応に苦労される方も少なくありません。27年度も継続的に企業就労者の現状の把握に努め、必要に応じて巡回や企業との調整を行なっています。就職はあくまで入り口



で、ご本人の定着のためには長期のフォローが必要な場合も数多くある事は今年度の実践からも明らかです。たのしいどうから企業就労にチャレンジされた方は離職もなく、必要な支援を活用しながら生き生きと活躍していました。

□事業所内での生産活動（取り組みの詳細は就労事業報告参照）

・パンの製造販売

～近隣市町村の総合病院売店からの要望を受けて、新たにパンの納品を開始しました。収入増が期待されましたが、材料費の高騰により利益が上がりにくい現状が明らかとなっています。コスト管理の徹底と継続的な取り組み事項である地方発送可能なパンの開発を継続的に進めていきます。

・菓子の製造販売

～ロールケーキの冷凍流通の取り組みの中で、北海道外の事業所との取引も安定して行なえています。今後は、日持ちのする製品として取り扱いたいという顧客のニーズにもお応えし、冷凍食品としての営業許可取得を新たに目指します。

- ・カフェでの飲食店運営

～キッズコーナーの拡充の結果、お子様連れの団体様にご利用頂けるなど、カフェの主な顧客層の利便性が増した様に思います。トイレにはおむつ替え用のベビーベッドを設置し、「お子様に優しいカフェ作り」を進めました。

- ・利用者昼食、グループホーム夕食の製造委託作業

～昼食メニューとして、全国の事業所製品を積極的に取り入れた多彩なメニューを提供しました。新しいメニューで利用者さんの楽しみが増えたほか、内需拡大の取り組みとしても一定の取引実績を積み上げることが出来ました。今後もより一層の推進を目指します。



- ・紙工芸品と受注作業

～季節に応じた紙工芸作品の販売を継続、今年度は新たに地元町内会の依頼を受けて、児童公園の清掃と草刈り作業を行ないました。地域住民の皆様の暖かいねぎらいの言葉を頂きながら、屋外でのいきいきとした作業が行なわれました。



- ・新規事業「そらかぜ食堂」の運営

～試行錯誤の連続ですが、毎日80～100名のお客様がお昼時に集中する店舗を、利用者さんが役割を分担し、一生懸命取り組んだことで円滑に対応することが出来ました。接客等の機会も数多く、急速に就労スキルを高めていく利用者さんもあり、収益面と合わせて大きな収穫を得た一年となりました。



□やりがいや楽しさを創出する活動

- ・北海道障がい者芸術祭「みんなあ〜と」に向けて数年に渡り取り組んできた「踊り」という分野での発表が今年度は実を結び、北海道知的障がい福祉協会 50 周年記念に合わせた「あいご芸術賞」を受賞しました。(実質第 2 位にあたる)。



ステージ部門での受賞は2年連続となり、
発表した利用者さん達も大きな喜びに包まれた素晴らしい一日になりました。日頃の練習の真剣な眼差しや踊ることの楽しさ、賞を目指すという目的意識など、利用者さん達の頑張りを陰ながら応援できたと思います。

- ・当事者活動の支援

年間の利用者行事では、利用者さんが「実行委員」として参画する事を念頭に置き、相談を重ね、準備や当日の運営を行ないました。本番はもちろんですが、準備段階から飾りつけ等を生き生きと作る姿が見られ、少しずつ「行事を創る役割」の大切さと楽しさを知って頂けているのではないかと思います。

■ 権利擁護

常勤スタッフはもちろんですが、今年度もパートスタッフ研修をのべ4回実施し、日頃外部研修に出る機会の少ないパートスタッフの勉強の機会を持ち、人材の育成に努めました。今年度は自閉症の方とダウン症の方の理解に資する内容を盛り込み、より実践的に具体的な配慮についての学びを深めました。障がい特性を知ること、より一層の合理的な配慮のある現場作りを推進します。

■ 苦情解決

今年度の苦情受付は0件となりました。専用ポストに投函するだけの簡単仕様となっている、「相談カード」の運用を継続的に行ない、小さな悩みでも相談に乗れる体制を維持しています。利用者さん間の人間関係の調整を求める相談もあり、相談が寄せられた際には間に入り、解決に努めています。



■感染症対策

手指消毒の励行は重点的に実施しています。朝の受入れ担当者とは別にスタッフを配置し、正しい手洗いの方法や、感染症予防のためのうがい等の支援を行ないました。インフルエンザは利用者さん・スタッフの中で数名罹患者が出た

ものの、大規模な流行は防ぐことができました。食品加工事業だけではなく、ノロウイルスなどの食中毒の予防についても防止策に努めます。



毎朝の手洗い支援の様子

■災害対応・事故対策

避難訓練を年3回実施。うち一回は地震想定
の避難訓練を行ないました。地面が激しく揺れているイメージは中々つかみにくく、事前に防火管理者から利用者さんやスタッフに実際に陥る状況について説明し、実践に移ることとしました。概ね円滑な避難が行なえた後は、地震の知識を深めるためのDVDを上映しました。



大地震のDVDで理解を深める

■年間行事

年度内に実施した法人事業所合同の行事に関しては法人の事業報告参照。

■諸会議

- ・法人全体会議・・・定例で月1回実施。
- ・事業所会議・・・月1回実施。当初は事業班単位で行なっていましたが、相互連携の必要性から、主に事業所単位での会議としました。
- ・個別支援計画策定会議・・・個別支援計画作成時に1ケースごとに実施。計画原案をもとに支援内容等について検討しました。利用者さんにわかり易く提示できるようにスタッフで議論しています。
- ・ケース会議・・・日々の利用者支援について情報を共有しています。必要に応じて事例検討を行ない、支援方針を立案しています。
- ・そらかぜ食堂担当会議・・・各部門担当者が出席。販売動向を確認し、販売計画や戦略について検討し、実践しています。
- ・企業就労担当会議・・・現在企業就労されている方の定着支援について情報を共有し、支援の方向性について話し合いを行なっています。
- ・給食会議・・・各事業所担当で翌月の献立について調整をしています。

■健康管理

健康診断を年1回実施し、疾病の早期発見に努めています。重篤な疾病等が発見されることもありませんでした。一部の利用者さんに体重増加が見られることから、食生活等の助言や運動の習慣など、適宜スタッフより必要な情報提供を行なっています。

■支援記録

継続して連絡帳形式での支援の経過報告を行なっています。ご自宅から通所される方にはご本人の近況を伝えるための機能があり、グループホームから通所されている方には世話人や生活支援員との情報共有の効果があります。

記入時間と人数の関係上、毎日事細かに記載するのは難しいところですが、タイミングを逃さずに必要な情報を伝えるための工夫を日々の支援の中で行なっています。

■職員研修

年度内に参加した外部研修等に関しては法人の事業報告参照。27年度は学びたい内容に合った研修を提案する様に勧めました。スタッフ自身の意思で参加した研修は充実感もより高く、現場へのフィードバックの意欲も向上する様に思われます。より一層の推進を図るべく、仕組み作りが必要です。



■施設整備状況

- ・駐車場の整備～材料仕入を行ない、スタッフの手で実施。
- ・食堂ドアの改修～建具の製作技術のある福祉事業所に依頼。

■工賃支払い状況

□就労移行支援事業

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実人数	8	8	7	7	8	8
総支給額	92,200	87,100	94,300	81,500	90,100	98,600
平均額	11,525	10,888	13,471	11,643	11,263	12,325

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	8	8	8	8	5	5	88
総支給額	86,100	99,200	172,800	81,100	58,800	295,700	1,337,500
平均額	10,763	12,400	21,600	10,138	11,760	59,140	15,198

□就労継続支援事業B型

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実人数	24	24	26	25	25	24
総支給額	303,500	296,800	371,000	326,400	314,300	327,100
平均額	12,646	12,367	14,269	13,056	12,572	13,629

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	24	24	24	24	27	27	298
総支給額	279,500	323,000	528,700	262,500	356,100	1,098,200	5,506,000
平均額	11,646	13,458	22,029	10,938	13,189	40,300	19,000

□生活介護事業

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実人数	16	16	16	14	15	15
総支給額	173,800	156,500	186,400	161,800	144,400	157,200
平均額	10,863	9,781	11,650	11,557	9,627	10,480

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	15	16	16	15	15	15	184
総支給額	152,100	176,400	306,000	148,700	167,200	452,300	2,382,800
平均額	10,140	11,025	19,125	9,913	11,147	30,153	12,950

□事業所全体の平均工賃額 ￥16,475/月(50名)

5. 課題

そらかぜ食堂の開店に伴い、事業振興の面では前進した一年であった様に総括します。一方、既存の製パンや製菓等の事業は材料費高騰に対応したコスト管理に課題を残しています。次年度に向けては、投資した材料等の財産を効率的に利益につなげるべく、生産管理体制の強化が必須となります。積極的に施設間の製品の購入を推進する「内需拡大計画」も年々前進をしていますが、まだ定着までの道のりは長く、次年度に向けて更なる取組みを行なっていきます。

小委員会の設置は段階的に進めましたが、一人のスタッフが複数の係を兼任することも多く、主な役割を精査していく必要性があります。また、今年度実施した地震想定避難訓練をもとに、施設内の危険個所の洗い出しと改善、有事の備蓄品の確保策の検討が必要と思われます。

就労事業の報告

■ 事業班名 レインボー

1. 取組みの概要

これまで取り組みを続けてきた「クイリング」の作業も5年目に入りました。ミニチュア製品から50センチを超えるクリスマスリースまで、様々な企画で製作を行ないました。また、今年度は8月から10月までの3ヶ月間、公園管理業務の委託を請け、毎週の清掃作業と月1回の草刈作業に取り組みました。企業からの受注作業では各種袋詰め作業に取り組んでいます。

レクリエーション活動は今年度延べ100回実施。ダンスエアロビクスやハンドベルは今年度も継続しています。今年度は個別の趣味活動への支援を希望に応じて取り入れました。クイリング技法を取り入れたアートにも挑戦し、岩見沢市のアート展に出展しています。



2. 成果

袋詰め作業では、仕様書に基づいて正確な作業が求められ、ほどよい緊張感の中で今後に生きる経験となりました。また、公園管理業務を通して、事業所の外へ向けて作業の場を広げることができ、利用者の皆さんのやりがいや自信につながる取り組みとなりました。



3. 課題

利用者さんの日々のやりがいとしての作業活動に、収益性をいかに持たせるかが毎年の課題となっています。新規事業の開拓と既存のクイリング作業の販売計画を見直し、利用者さん達に合った作業の体制作りを行なう必要があります。

■ 事業班名 ぱん工房春いろ&HARU カフェ

1. 取組みの概要

年々利用者さんの人数が増えてきていますので、手狭になってきている工房内の有効活用や能率向上に繋がるよう、作業の細分化に取り組みました。どの役割も欠けては困る大事な作業で、利用者さんの得意分野を活かした力を発揮してもらっています。店舗運営の面では、季節に応じたフェアを行っています。パンの地方発送に向けた取り組みでは、継続的な取引にはまだ時間がかかりますが、冷凍パンロールを北海道外に発送納品する実績を得ることが出来ました。HARU カフェでは、小さなお子様連れの顧客獲得に向けて設備整備を行ないました。



2. 成果

作業の分担制をより明確にしたことで、利用者さんの共働作業への意識が高まった様に思います。製品の製造工程の中で、利用者さん同士で互いにアドバイスをし合いながら進めている姿も見られ、利用者さんの働くことへの意欲や責任感の向上に繋がる良い取り組みになったと感じています。冷凍パンロールの試作に行き詰まり、スタッフが二の足を踏む場面では、利用者さんも色んな意見提案をしてくれました。利用者さんとスタッフが一丸となり「悩み」・「考え」・「調べる」ことで、共に成長できたと感じています。



3. 課題

売上げを順調に積み上げても、原価計算による収益分析に詰め甘さが残り、効率的に利益として反映させることができませんでした。新年度は製品原価の再計算による価格の見直しや、製造ロスの把握を始めとした生産管理等を学び、徹底したコスト管理体制を築き上げ、ムダを無くし利益向上に取り組みます。

カフェにおきましては、集客アップに向けて、パンを購入して頂いたお客様に店舗併設のカフェで召し上がっていただけるように店舗設営を行ない、多くのお客様に HARU カフェに触れ、また利用したいと思って頂けるような居心地の良い店作りを目指し、また、お子様が喜んで残さず食べられるキッズメニュー開発に取り組みます。

また、冷凍パンでは品質試験と改善を積み重ね、パンの冷凍発送事業としての確立を目指し、開発を推し進めていきます。

■ 事業班名 HARU Berry

1. 取組みの概要

昨年度の課題でもあった作業場の面積の課題について検討を重ねた結果、菓子製造部門を本体施設に戻すこととしました。今年度はクリスマスやバレンタイン、ホワイトデーなどのイベントにも力を入れ、レインボー班と協力することで商品の見栄えもさらに良くなりました。イベント時期は注文数が多くなり大変でしたが、利用者さんが役割分担し、無事やり遂げることが出来ています。また、ロールケーキの冷凍流通を通して全国の施設間との取引拡大にも取り組みました。全国の事業所との取引先も増え、新しいつながりを作ることが出来ました。



クイリング作品付きのXmasケーキ

2. 成果

イベント時期は都度チラシを作成し、パン工房やそらかぜ食堂、利用者さんやご家族にもご案内し、たくさんのご注文を頂くことが出来ています。又、ロールケーキの冷凍保存期間を確認するための生菌検査を継続的に専門機関で行なった結果、冷凍保存の期間を従来の1か月から2か月に延ばす事が出来ています。保存期間を長くすることで、取引先の皆さんが在庫を持ちやすくなるため、発注の単位も多くなり、結果として送料を節約出来るようになりました。



ロールケーキ製造中

3. 課題

製品の保存期間を延ばしていく以上、より高度な衛生管理体制が求められます。すでに利用者さんも意識を高く持ってくれているところですが、器具の消毒や作業場の環境など、さらなる衛生面の向上に取り組んでいきます。

全体的にイベントの展開開始時期が遅れがちになったことから、受注できる期間が総じて短くなってしまったことが課題でもあります。次年度は年間の製造計画に沿って、より計画的に進めていける様に取り組んでいきます。全国の施設間の取引を推進する「内需拡大」の取り組みについては、たくさんの施設からの受注を頂きましたが、継続的な取引となるように、製品に活かせる材料としての仕入れも含めて、活発に相互の取引となる様に取り組みたいです。



カット状態でも発送可

■事業班名 さんくっく

1. 取組みの概要

昨年度に引き続き、事業所内の昼食とグループホームの夕食製造を行なっています。グループホームの新設により、9か所のホームの食事の振り分けをし、各ホームへ届ける役割を生活支援員に引き継ぐ形で行なっています。リクエストメニューを継続し、食の楽しみを常に提供できる様に努めました。内需拡大の取り組みとして、月々の献立には全国の事業所製品を積極的に取り入れています。



ノーブル（長崎）の柚子そうめん。
豊かな風味に舌鼓を打ちました。

2. 成果

事業所製品を使う事は「食べたことのないものが食べられる」という新しい食の出会いでもあります。利用者さんも珍しい食材に興味津々でした。盛り付けが寂しくなる課題については、今年度定例で行なうこととなった給食会議でも担当者が意見交換をしながら、より美味しく見える盛り付けを心がけるなど、目で見ても楽しい献立の立案を推進しています。衛生管理として手洗い、白衣のごみ取りチェックを継続して行っており、利用者さんにも毎日の習慣として浸透してきています。



3. 課題

現在使用している食器も種類が限られており、食事の盛り付けについては今後も工夫を重ねていきます。また、材料の仕入れ価格への意識があまり行き届いていなかったため、年度途中からの仕入れ先の変更で、同等の食材をかなり低コストで仕入れることが出来ています。利用者さんの工賃を高めていくために、継続して検討します。乾燥食品作りの取組みに関しては、製品化までたどり着けなかった事が大きな課題として残り、28年度こそは製品化する様に計画的に取組を進めていきます。

手洗いや器具の洗浄などをはじめとした衛生意識の向上は最優先事項として取組みます。事業所内とグループホーム、法人内のほぼすべての利用者さんに対してが食事を提供する班として、食品事故ゼロを継続します。

■事業班名 そらかぜ食堂

1. 取組みの概要

5月のグランドオープン以来、食堂の利用者さんの工賃向上はもちろん、法人内事業所製品の販売により、事業所内の利用者さんの工賃向上という目的も持ち、試行錯誤の中スタートしました。ホールや食事受け取りカウンターでの接客作業を利用者さんの役割で、生き生きとした利用者さんの接客が顧客にも好評で、順調な一年目の運営となりました。各事業班担当で構成する会議で戦略立案し、法人全体で運営を支える形も事業振興の新たな取組みの一つです。販売動向の把握を円滑化するために、タブレット端末で販売管理をする「エアレジ」を新規導入しました。



2. 成果

多い時は一日100名以上のお客様を迎える賑やかな食堂となりました。利用者さんも意識を高く持って役割に取組まれており、急速な成長が見られました。

エアレジの導入により販売管理の業務量が大幅に軽減され、戦略立案も迅速に行なえることとなり、大きな効果を挙げました。新商品の投入やその効果の検証や不振商品の抽出等、今後の事業振興の取り組みに向けて、販売管理体制の強化とスタッフ個々の意識の向上につながりました。内需拡大の取組みにおいては、多くの消費が見込めるため一括仕入れが可能であり、仕入れた製品を加工販売し、売り上げに繋げていくことが出来ました。



内需拡大計画から生まれた「夏野菜そうめん」。好評を博した。



エアレジのデータ画面。レジ登録が即座に反映される。

3. 課題

100名分の食器洗い等の片づけ業務は膨大で、現在の利用者さんの人数では負担が大きいことが課題として挙げられます。そらかぜ食堂作業の希望者もいらっしやいますので、実習・体験をして頂き、取り組む利用者さんが増えていく様に支援を行なっていきます。また、通常のランチメニューは好調に推移した反面、パンやおにぎりなど、ホールで販売する製品類の売れ行きはかなり伸び悩んでいる現状です。新年度もエアレジのデータを多面的に集計し、効率的な売り場作りを目指していきます。

■データ

- 1. 製造販売事業 売上2, 540万円 工賃還元額778万円
- 2. 下請加工事業 売上 181万円 工賃還元額161万円

平成27年度 きっちんどう 事業報告

1. 27年度事業の総括

平成22年オープンより、6年目の事業となりました。創作おにぎり・仕出し弁当を作業種を中心に活動したこの5年間の効果が少しずつ成果として実感できてきた1年と感じました。特に仕出し弁当では、27年度にオープンした空知総合振興局の「そらかぜ食堂」の効果をいただき、局内からのお弁当の注文が増えました。また、市内からも直接、チラシを撒いたことのない場所からご注文をいただくことが増えて参りました。また、26年度に導入させていただいたスチームコンベクションオープンの効果で利用者也加熱調理の工程に参加することができるようになり、調理量・スピードと格段に効率的になりました。

おにぎりの製造販売については、昨年度比較して、大きな変化や結果を得ることはできませんでしたが、季節企画の「恵方巻き」や千歳高校のBSC（ビジネス スタディー クラブ）と新商品「パリゾット」を開発し、冷凍流通保存品として道外へ出荷できるまでの商品とすることができました。定番の肉巻きおにぎりでは、醤油だれの他に「ゆずこしょう味」「イタリアン（トマトチーズ味）」の2種においても冷凍流通保存品としての品質を確保し、賞味期限の延長も確認することができています。全ての商品が利用者手作りであるため、一つひとつ形は違いますが、品質に科学的根拠の裏付けを取ることと自信を持って販売できる商品へと進めることができています。

2. 実施事業

就労継続支援事業B型	定員14名	現員18名
生活介護事業	定員6名	現員6名

3. 平成27年度の利用状況

■きっちんどう全体（定員20名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24		97.3 %
開所日数	26	23	26	26	23	24	26	24	24	24	24	26	296	
延利用回数	492	458	496	503	477	482	482	455	465	462	477	511	5,760	

平均実利用数 19.5名（小数点第2位以下切り上げ）

就労継続支援事業B型

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	296	103.4%
開所 日数	26	23	26	26	23	24	26	24	24	24	24	26		
延利用 回数	370	342	369	373	353	358	357	335	344	342	357	386		

平均利用数 14.5名（少数点第2位以下切り上げ）

生活介護事業

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	296	83.0%
開所 日数	26	23	26	26	23	24	26	24	24	24	24	26		
延利用 回数	122	116	127	130	124	124	125	120	121	120	120	125		

平均利用数 5.0名（少数点第2位以下切り上げ）

26年度と比較し、現員数の変化はありませんでしたが、1%ほど利用率が上がっています。

4. 取り組みの概要

27年度のきっちんどうとして、昨年同様、食品製造販売事業を利用者支援の主軸として活動を実施。主におにぎり製造販売、弁当製造販売、昼食提供事業にて活動を行ないました。また、下請け加工事業では、市内にあるスーパーにて職場実習を実施いたしました。

利用者の安全を第一に、受け入れの確認及び日中での支援を実施いたしました。また、生産活動である食品加工での食品事故が起きないように「手洗い支援」「異物混入ゼロ」に重点を置き支援を行ないました。

年に2回定期的に行なっている火災想定避難訓練の他に災害想定避難訓練も実施いたしました。

■利用者支援

支援の主軸である生産活動事業では、おにぎり・弁当製造を中心に活動を実施しました。

27年度は、空知総合振興局の食堂「そらかぜ食堂」をオープンしたことで、店舗でおにぎりの販売も開始し、岩見沢での販売機会が増えました。



そらかぜ食堂のホール

また、お弁当製造では、昨年度ヤマト福祉財団様より助成頂いたスチームコンベクションオープン導入後、これまでは単体事業所では、受けることができなかった弁当の大量注文にも応えることができるようになり、製造時間も2割ほど短縮できるようになりました。利用者さんが製造にかかわる工程の中で、これまで加熱調理を行なうことが難しいと考えていた利用者さんがスチームコンベクションオープンのトレーに食材を並べたり、オープンに出し入れをしたりと作業種にも変化が見えて来ています。

製造した商品の販売強化として、27年度も日本知的障害者福祉協会主催 第4回全国生産活動・就労支援部会職員研修会（三重大会）に参加させていただきました。



年々、参加事業所の商品のレベルが高まっていくことを実感する中で、「もっと相互の事業所でも商品を買ひ合えるような取り組み（内需拡大）が必要」との声を橘常務より全国へ発信していただき、きっちんどうでも日ごろの活動から全国の他事業所の商品を取り扱うことができるような取り組みを進め始めています。

■権利擁護

権利擁護・苦情解決委員会の活動としては、年度初めに北海道知的障がい福祉協会にて行なわれている「人権侵害ゼロの誓い」の署名を実施。

日本知的障害者福祉協会の倫理綱領をスタッフで読み合わせを実施。年度途中にも法人内研修にて再度、取り上げ読み合わせを行なっています。また、調査等の結果よりB型事業での虐待の件数が多い結果やマスコミで取り上げられた事件などが起こるたびに、朝会・終礼等にて、スタッフ間で議論する場を持ち、「自分たちにも起こり得る」視点を持ちながら、権利擁護・虐待防止について考える時間を持っています。

人権侵害ゼロへの誓い

北海道知的障がい福祉協会宣言

私たちは、
知的障がい者の自由と尊厳を守り、
自立した生活を支援するため、
あらゆる努力を惜しまず、
知的障がい福祉事業所における
「人権侵害ゼロ」の実現を誓います。

1. 私たちは「日本国憲法第13条」「障害者権利条約」「障害者差別解消法」「障害者雇用促進法」を遵守し、虐待、差別・差別行為を防止し、必要に応じて苦情処理を行います。

2. 本宣言に「人権侵害ゼロへの誓い」の署名を添付し、施設・事業所等虐待や差別を防止します。

3. 人権侵害ゼロを実現するため、虐待防止の研修・研究活動のありとを共に、必要な取組を実施します。

日付 年 月 日

■苦情解決

苦情受付については、27年度1件となっています。

苦情に対しては、苦情解決責任者より対応し、苦情に至った状況の確認と支援上の説明、対応においてのお互いの確認を行ない、理解を得ることができています。

今後も利用者、ご家族、障がいのある方たちの身近にいる方たちから気軽に要望や相談が行なえるように対応しています。

■感染症対策

利用者支援で実施している食品衛生面での取り組みは、感染症においても良い影響を与えています。月一度の検便も大きな役割を果たしています。27年度は、残念ながら年明けの1月以降よりインフルエンザに数名の利用者・スタッフが感染し、お休みしていただいています。ご家庭や生活支援等とも連携及び協力をいただいたことで、集団感染に至ることはありませんでした。

■災害対応・事故対策

非常災害・事故対策では、火災想定避難訓練を年2回実施（8/12、11/2）。利用者・スタッフ一同、改めて火災での災害時の対応方法、避難経路、避難先を確認する内容にて訓練を実施しました。

また、27年度では自然災害時を想定した避難訓練も実施（2/12）。東日本大震災からの学びを忘れないように、車両のガソリンを半分以下になったら給油することや製造販売事業と連動して、お茶などの在庫においては、3箱（72本：利用者1日1本分）を確保するように努めています。災害時の燃料・非常食確保を進めておくなど、今すぐできる備えを取り組み始めました。



消防からレンタルした教材 DVD で学習

■年間行事

日時	行事名	会場
5/13～18	南空知高校野球予選会	岩見沢市営球場
6/26	ゆあフェス（青年会議所主催）	ぷらっとパーク
8/6	光陵中学校壁新聞取材協力	きっちんどう
8/8	LP ガス協会主催 キャラ弁教室	きっちんどう
10/4	ロータリークラブで販売	岩見沢赤レンガ
10/6～8	全国生産活動・就労支援部会職員研修会	三重県津市
10/10	空知のチカラ	砂川こどもの国
1/9	LP ガス協会主催 キャラ弁教室	きっちんどう



ロータリークラブで「げそ井」を一緒に開発した緑陵高校生と販売



空知のチカラ 販売会場

■諸会議

- ・法人全体会議・・定例で月1回実施。
- ・事業所会議・・月一度の全体会議の他に事業所会議を月1回ペースで実施。
全体会議であがった案件や事業所の議案について検討しました。
- ・個別支援計画策定会議・・個別支援計画作成時に1ケースごとに実施。計画原案をもとに支援内容等について検討しました。利用者さんにわかりやすく提示できるようにスタッフで議論しています。
- ・ケース会議・・日々の利用者支援について検討を行ない、支援を実施しています。
- ・そらかぜ食堂担当会議・・各部門担当者が出席。販売動向を確認し、販売計画や戦略について検討し、実践しています。
- ・企業就労担当会議・・現在企業就労されている方の定着支援について情報を共有し、支援の方向性について話し合いを行なっています。
- ・給食会議・・各事業所担当者が翌月の献立について調整をしています。

■健康管理

8/27 全利用者、スタッフに対して健康診断を実施。27年度も任意での取りまとめとなった検診でしたが、たくさんの利用者が検診を行なわれています。

一般検診の身体測定、視力検査、聴力検査、血液検査、尿検査、胸部X線、心電図、個人からのオプション検査。検査結果により、個人相談及び精密検査を勧めています。

■支援記録

利用者支援記録及び事業所日誌を通して、記録の在り方をスタッフと確認しています。第三者に閲覧していただくことがあっても適正な記録として見て頂けるような内容の記

載を行なうように伝えています。1日の中で「できたこと」や「良い表情が見られたこと」などに目配りし、少しでも利用時間中に利用者さんが楽しんでおられた様子の記録をしていくことが大切であることを昨年同様、継続指導しつつ、記録を残しています。

■職員研修

行政や各福祉団体からの法の改正における制度の研修、利用者支援・権利擁護における研修、生産活動における研修等で外部研修に15回延べ18名参加しています。

内部研修も不定期ではありましたが実施。基礎知識を含め、制度、記録方法などについても研修を行なっています。また、防火管理責任者や小型車両免許など事業を運営にするに当たり必要な資格取得にも取り組みました。



茨城 白銀会・新冠 ミルト研修

■施設整備状況

機器・・・・・・FF式ストーブ3台（食堂、店舗、スタッフルーム）

■工賃支払い状況

□就労継続支援事業B型

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実人数	18	18	18	18	18	18
総支給額	282,600	267,300	309,500	267,500	260,600	317,100
平均額	15,700	14,850	17,194	14,861	14,478	17,617

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	18	18	18	18	18	18	216
総支給額	295,900	309,000	466,400	276,100	317,400	958,300	4,327,700
平均額	16,439	17,167	25,911	15,339	17,633	53,239	20,035

□生活介護事業

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実人数	6	6	6	6	6	6
総支給額	82,900	75,300	87,700	79,300	84,200	87,500
平均額	13,817	12,550	14,617	13,217	14,033	14,583

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	6	6	6	6	6	6	72
総支給額	75,100	86,700	141,900	73,000	86,400	307,700	1,267,700
平均額	12,517	14,450	23,650	12,167	14,400	51,283	17,606

□事業所全体の平均工賃額 ￥19,428—(24名)(対26年度比 +1,655円)

5. 課題

利用者さんの行なえることが確実に広がりを見せています。対応可能な製造量も増えてきており、250個程度までであれば、迷いなく受注することが可能となっています。しかし、生産活動支援が増えれば増えるほど、職員の福祉業務にかかる時間が、業務の終盤にかかってくる傾向が見られ、全体業務としてのバランスの難しさを感じる状態が続いています。来期に向けても、まだまだ生産活動は拡大していく予定の中で、業務とスタッフ配置をどうバランスを取って進めていくかが課題となりそうです。

今後、おにぎり・お弁当の製造販売では、お客様からの安心、安全を確保するために、機械化できるものは導入し、利用者の役割として確立しているものはそのまま正確性を高めていく。効率化と細分化をミックスアップして、きっちんどう独自の製造ラインを構築させることが今後の課題となりそうです。

就労事業の報告

■事業班名 てのひら

1. 取組みの概要

食品製造班として、おにぎりの製造販売・弁当の製造販売・利用者昼食提供に取り組みました。

おにぎり製造では、「冷凍流通保存品」として肉巻きおにぎりの種類を増やし、イタリアン肉巻き、ゆず塩肉巻きが新たに流通できるようになりました。三重県で行なわれた「第4回全国生産活動・就労支援部会職員研修会」の物産展では500個の肉巻きおにぎり各種を販売しお客様に実際に手に取って食べて頂き、PR活動も行ないました。

また、千歳高校BSC部の高校生と協力して千歳産トマトとハスカップを使用した「パリゾット」、「オニギラズ」の商品開発を行ないました。

5月に行なわれた、春季北海道高等学校野球大会の空知予選会では1週間、うどん・おにぎりの販売を利用者さんと一緒に行ないました。その他、空知管内事業所のお祭りでも肉巻きおにぎりの販売を行ないました。

イベント時期には、恵方巻きやひし形おにぎりの予約販売を実施しています。



◇千歳高校と共同開発 パリゾット



ハスカップ使用オニギラズ



◇販売の様子 南空知野球大会販売



三重県で開催された見本市



◇2月 恵方巻き（海鮮巻き・サラダ巻き）



◇3月 ひし形おにぎり

お弁当製造販売では、宝永餃子弁当の販売を開始。同時に宝永餃子販売店として取り扱いを始めました。

空知知的しょうがい福祉協会の繋がりを活用し、それぞれの事業所で生産している野菜を取り入れて、かき揚げ丼をメニュー化しています。

また、24年度から続けさせて頂いているLPガス協会さんより承っている小学生対象のキャラ弁教室も年に2回夏休みと冬休み期間に実施しています。

昨今の食品異物混入事故の多くの事例から、当事業所でも白衣付着の異物取り除きに重点を置き、異物混入対策に取り組みました。



◇宝永の餃子弁当！



◇空知の食材を使用した「かき揚げ丼」



◇スタッフ作成ツムツムキャラクター！



◇キャラ弁教室。利用者さんも子供達をサポート！

2. 成果

パリゾットについては生菌検査を実施し、現在では5ヶ月間の賞味期限で冷凍流通保存品として販売ができるアイテムの一つとなりました。今年、新しく冷凍流通が可能になった商品については生菌検査を継続し、賞味期限の延長を行なっていくよう現在も商品を保管しています。昨年の10月に三重県で行なわれた「第4回全国生産活動・就労支援部会職員研修会」においてたくさんの事業所の方、また一般の方にPRをさせて頂きました。昨年から商品の取引をさせて頂いています、本場さぬきうどん販売の「香川県ナザレの村あじさい」さんと同テナントとなり、協力することで販売力が増すことを実践し実感することができました。2日間で行なわれた物産展では全国の事業所と情報交換を行なったことで、相互に商品の購入を行なう機会が増えてきています。

お弁当製造では、近隣の福祉事業所や市内の企業や行政機関などからもご注文頂く事ができました。9月には岩見沢市役所福祉課様より優先調達推進法の一環で身体障害者スポーツ大会のお弁当受注がありました。あいにく当日は別の注文と重なったこともありご希望の数量全てを担う事が難しく100個で承りましたが、昨年よりスチームコンベクションオーブンを導入した事により一度に製造が行なえる数量が増え250～300個が可能となり無事納品を完了することができています。

27年度のキャラ弁教室は、第1回目は子どもから大人まで大人気のディズニー『ツムツム』のキャラクターより3種類を作りました。そして、第2回目はラッコキャラクター「ぼのぼの」を作りました。キャラ弁作りを通して、現在、IHが普及されているご家庭もある中ガスコンロでの調理を体験する機会にもなり、災害時などには電気よりも使いやすいLPガスの利便性を皆さんに体験してもらっています。普段は電気ジャーでしかお米を炊いたことのない皆さんも、真剣な表情で米川プロパンの方々に教えてもらいながら点火をし、上手にお米を炊くことができています。



◇特別注文のお弁当



◇イベントに合わせた掛紙を付け、
楽しさ+αに努めています。



◇作業風景

食品製造における衛生の取り組みとしましては、2点について実施を行ないました。一つは一昨年度から実施している“手洗い支援”の完全実施。二つ目は、異物混入対策として、スタッフによる利用者一人一人への白衣のローラー掛け、そして出品や納品する製

品のチェックを必ず2人以上で行なうダブルチェックの流れを作りました。食品を販売していくということは、一つひとつの商品に責任があることをスタッフ間、また利用者とも共有し衛生面への意識を高めています。



◇手洗い、消毒まで確認しチェック



◇スタッフにてローラーは必ず行なっています。

3. 課題

生産活動では、現在製造を進めている商品の質を上げていくことに力を入れてきましたが、新商品の開発が現在滞っている状況です。年間の製造販売計画表をもとに季節に応じたメニューで販売を進めながら商品を開発することで店舗の売り上げ、お弁当の売り上げ増も見込んでいきたいと思っています。肉巻きおにぎり各種の店舗での販売並びに定期的に生菌検査と官能検査を実施し、少しずつ賞味期限を延ばしつつ保存食としても全国の皆様へ冷凍流通することが行なえる様に進めていきたいと考えています。

また、お弁当においては建設業の現場へ営業をかけています。受注いただけると、まとまった数での納品が見込めますが現場の工期が終えると大きな減少にも繋がるので安定した受注がいただける顧客確保に努めていく必要を感じています。並行し、地域貢献として独居の高齢者の方にお弁当を届けるだけではなく日々顔を合わせることで健康状態も確認できるような取組みを進めていきたいと考えています。

■事業班名 まごころ

1. 取組みの概要

下請加工事業班として、外部への職場実習や自動販売機の管理等を実施しました。27年度も、飲み込んでも安心な口腔ケア製品である「ORAL PEACE」を仕入れ、事業所内のみならずイベントなどでも販売しました。

2. 成果

イベントなどでも販売する機会を得たことや、TVなどで取り上げられたこともあり徐々に商品の知名度が上がってきています。新しくペット用の商品も発売され市内の動物病院にも置かせていただいています。



◇イベントで販売させて頂きました。

ORALPEACE® www.oralpeace.com
 2016.1
 Press Release
 株式会社トライブ(横浜市西区北戸3-33 株式会社フューチャーセンター)
 〒221-0003 横浜市西区北戸3-33 株式会社フューチャーセンター
 TEL:045-663-2101 FAX:045-345-3201

ワンちゃん・ネコちゃんの健康とペットとの快適生活に
 「飲み込んでも安心」と話題のオーラルピースから
 オーラルピース フォーペット
 ペット用アイテム「ORALPEACE for PET」が新登場！！



◇ペット用も飲み込んでも安全安心！

3. 課題

外部への販売、アピールはまだまだ足りず、またスタッフ・利用者とも口腔ケアに対する意識はまだ低く、今後自分たちの意識の向上をすることで外部へのアピールにつなげていきたいと考えています。

4. データ

製造販売事業売上：1,188万円
 工賃還元額：488万円

下請加工事業売上：109万円
 工賃還元額：70万円

平成27年度 あかるいどう 事業報告

1. 27年度事業の総括

平成25年度に開設した、事業所「あかるいどう」も3年が経過しました。多様化するニーズの活動拠点とし、取り組みを進めてきたこの1年の中でも、様々な活動の挑戦や充実を目指して行ってきました。26年度に引き続き、事業所内における創作活動や下請け作業を通じた日中活動支援を実施しました。また、27年5月には、利用者さんの作業種拡大と工賃向上に向けて、新たに惣菜業を申請し、そらかぜ食堂へ惣菜の納品や販売を行ってきました。慣れない取り組みの中で、課題の多い1年となりましたが、個々の作業工程の成長がより感じられた1年ともなりました。

障がいのある方達の芸術作品を常設展示する「アトリエ」も開設して3年経過しています。制作活動では、アトリエ展示作品のテーマを設け、様々な作品展示の入れ替えに向けて、定期的に制作へと取り組んでいます。また、アールブリュット主催の展示会への参加やアートイベントへの作品応募等、利用者さんの芸術作品をより多くの方達に観て頂く機会を増やす事が出来ています。27年度は新たに、アート作品や製品の販売を始め、利用者さんの感性をより多くの方達に発信出来ればと考え、取り組みを少しずつ進め始めた試行錯誤の1年となりました。

2. 実施事業 (4月～12月)

就労継続支援事業 定員10名 現員11名

生活介護事業 定員10名 現員10名

3. 平成27年度の利用状況

■あかるいどう全体 (定員20名)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	20	21	20	19	20	20	19	20	20	20	19	19		76.6 %
開所日数	25	23	26	26	23	23	26	23	23	23	24	26	291	
延利用回数	373	363	385	397	366	365	380	368	367	360	350	386	4,460	

平均実利用数 15.4名 (小数点第2位以下切り上げ)

■就労継続支援事業 (定員10名)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	10	11	10	10	10	10	10	10	10	11	10	11		86.0 %
開所日数	25	23	26	26	23	23	26	23	23	23	24	26	291	
延利用回数	207	197	211	220	194	201	218	207	210	209	201	229	2,504	

平均実利用数 8.6名 (小数点第2位以下切り上げ)

■生活介護事業（定員10名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	10	10	10	9	9	10	9	10	10	9	9	8	113	67.2 %
開所 日数	25	23	26	26	23	23	26	23	23	23	24	26	291	
延利用 回数	166	166	174	177	172	164	162	161	157	151	149	157	1,956	

平均実利用数 6.8名（小数点第2位以下切り上げ）

4. 取組みの概要

27年度日中活動の取り組みとして、製造販売事業と下請加工事業に分かれ、個々の特性に応じた作業内容と、新たな取り組み、挑戦へと支援を行っています。

製造販売事業では、昨年に引き続き、利用者さんへ提供する昼食製造、27年度からは新たに惣菜製造業を申請し、そらかぜ食堂に納品、販売を行なう惣菜小鉢の製造も合わせて行ない始めています。また、事業所間の昼食や歩〜夢の夕食献立へと内需計画を取り入れ、惣菜の納品も定期的に行ないました。下請加工事業では、館内清掃と市内の高齢者施設における清掃、4月より空知振興局で運営を開始したそらかぜ食堂では、利用者さんが販売業務や調理作業に取り組み、製造や接客と日々の販売に取り組んでいます。館内では、アトリエ展示品を市内の障がい者関係施設グループや市内中学校特別支援学級等から作品を募集し、障がい者アートの常設展示に取り組んでいます。

■利用者支援について

□就労継続支援事業

就労継続支援事業では、昨年度に引き続き1名が企業実習を実施してきています。

職場実習では、雇用契約を幾度も調整してきましたが、雇用主様との調整の都合がつかず、雇用契約を見送り、10月で離職という結果となりました。定着支援への難しさや支援の必要性、調整への難しさを強く感じた1年となりました。

□事業所内での生産活動（取り組みの詳細は就労事業報告参照）

日中活動の生産活動では、そらかぜ食堂で提供する惣菜の製造を、4月より行ない始めています。工程が慣れるまでとても時間がかかり、利用者さんの作業量は一気に増え、忙しい日々となりました。しかし、新たな調理の工程や経験を繰り返し支援するなかで、一人ずつが責任をもって進める工程も増えてきています。「美味しいものを作ろう」という食に対しての興味や意識、作る事の楽しみを大切に、商品としての安全性を高めていけるような支援を今後も実施していきたいと考えています。

創作活動では、作品を常設展示するアトリエに飾る作品も多数増え、テーマ毎に展示の入れ替えも定期的に行なっています。また、一人ひとりが、自ら作りたい作品の種類や道具などを選択する機会も増えています。個々が持った才能が作品となり、またアート製品の一つに繋がる活動へと活かされてきています。



■権利擁護について

権利擁護・苦情解決委員会の活動としては、年度初めに北海道知的障がい福祉協会にて行なわれている「権利侵害ゼロの誓い」の署名を実施。日本知的障害者福祉協会の倫理綱領をスタッフで読み合わせを実施。年度途中にも法人内研修にて再度取り上げ、読み合わせを行ない、法人独自の危機管理アンケートを実施し、自己点検をスタッフ個々で行なっています。また、自己覚知について研修し、利用者支援において事前に対応をチームで決める等、ケース対応について検討しております。

■苦情解決委員会

苦情受付については、今年度0件となっています。苦情件数は0件でしたが、要望は2件あり、相談や内容等は、利用者さん一人ひとりから口頭で受け付けており、随時対応を行っています。

■感染症対策

感染症対策として、年に一度の健康診断実施やインフルエンザ予防接種の奨励。感染症については、月一度の検便も大きな役割を果たしています。今年度、感染症に罹った利用者、スタッフは0名で終えることができています。

■災害対応・事故

8/12、11/2に火災想定による避難訓練と、今年度よりはじめて地震想定による避難訓練を2/10に実施しました。利用者さん・スタッフ一同、改めて火災、地震等での災害時の対応方法、避難経路、避難先を確認する内容にて訓練を実施しました。地震発生時の身の守り方や、安全な避難方法などを知る良い機会となりました。



事故防止においては、交通事故や支援中の事故ばかりでなく、個人情報の取り扱いについて指導及び教育を行っています。

■年間行事

日時	行事名	会場
4/1～5/31	アトリエあかるいどう ・リサイクルアート作品展示	あかるいどう 1階アトリエ
6/1～9/30	アトリエあかるいどう ・アールブリュット作品展示	あかるいどう 1階アトリエ
7/4	環境フェスタ 作品展示・販売	岩見沢 赤レンガ
7/11	アールブリュット協議会主催展示会 作品出展	札幌アスティ 4・5ビル 14階
9/3～9/5	みんなあーと展示部門 入選作品「凱風快晴」 作品展示	札幌 かでる 2・7
10/1～1/31	アトリエあかるいどう ・油絵&水彩画 作品展示	あかるいどう 1階アトリエ
11/29～12/6	障がい者週間アート展「ハート&アート 2015」 作品出展	岩見沢駅 2階
2/1～5/31	アトリエあかるいどう ・カラアート・ステンドグラス作品展示	あかるいどう 1階アトリエ

■諸会議

- ・法人全体会議・・定例で月1回実施。
- ・事業所会議・・月一度の全体会議の他に事業所会議を月1回ペースで実施。
全体会議であがった案件や事業所の議案について検討しました。
- ・個別支援計画策定会議・・個別支援計画作成時に1ケースごとに実施。計画原案をもとに支援内容等について検討しました。利用者さんにわかりやすく提示できるようにスタッフで議論しています。
- ・ケース会議・・日々の利用者支援について検討を行ない、支援を実施しています。

- ・そらかぜ食堂担当会議・・・各部門担当者が出席。販売動向を確認し、販売計画や戦略について検討し、実践しています。
- ・企業就労担当会議・・・現在企業就労されている方の定着支援について情報を共有し、支援の方向性について話し合いを行なっています。
- ・給食会議・・・各事業所担当で翌月の献立について調整をしています。

■健康管理

8/27 全利用者さん、スタッフに対して健康診断を実施。

身体測定、血液検査、胸部x線、心電図、個人からのオプション検査。検査結果により、個人相談及び精密検査を勧めています。

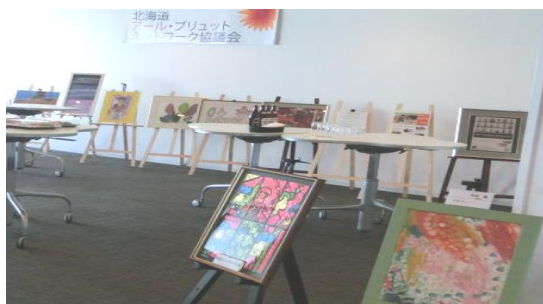
月1回、利用者さんの体重測定を実施しています。医務日誌や連絡帳を通して、季節に応じた体調管理や体調変化など、親御さんと連絡を取り合っています。

■支援記録

事業所日誌や日々の支援記録を通して、記録の在り方や適正な記載の方法などを伝えています。1日の作業の内容や出来事だけではなく、どのような工程が出来るようになったか、どんなことへ興味を持って取り組んでいるかなども記載するよう指導しています。出来ない行動ばかりに注目するのではなく、色々な視点を変えながら支援し、記録へと繋げていけるよう指導しています。

■職員研修

行政や各福祉団体からの法の改正における制度の研修、利用者支援・権利擁護における研修、生産活動における研修等の外部研修に延べ14回4名が参加しています。内部研修も不定期ではありましたが実施。職員研修では質問しにくい障がいについての基礎知識を含め、制度、記録方法などについても研修を行なっています。



7月11日に開催された、「北海道アールブリュット協会作品展示会」の様子



9月16、17日に開催された、「北海道知的障がい関係支援員研修Ⅱ」の様子

■施設整備

実施日	整備事業	金額
6/15	厨房作業室エアコン整備	¥302,400－
11/6	食堂F F 式温風暖房機工事	¥127,426－
	2 階職員室F F 式温風暖房機工事	¥127,427－
11/16	1 階食堂・玄関引戸設置工事設備	¥177,898－
	1 階アトリエ・食堂引戸設置工事設備	¥189,302－
	合 計	¥924,453－

■工賃支払い状況

□就労継続支援事業

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実人数	11	11	10	10	10	10
総支給額	253,700	274,000	293,600	271,400	270,100	466,800
平均額	23,064	24,909	29,360	27,140	27,010	46,680

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	10	10	10	11	11	11	125
総支給額	296,500	274,700	345,900	239,000	259,200	458,700	3,703,600
平均額	29,650	274,700	345,900	239,000	259,200	458,700	29,629

□生活介護事業

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実人数	10	10	10	9	10	10
総支給額	115,100	111,100	118,800	108,800	106,200	123,200
平均額	11,510	11,110	11,880	12,089	10,620	12,320

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	10	10	10	9	9	8	115
総支給額	97,000	120,300	191,900	90,900	104,100	234,200	1,521,600
平均額	9,700	12,030	19,190	10,100	11,567	29,275	13,231

□事業所全体の平均工賃 ¥ 21,772－（21名）

5. 課題

今年度から生産活動に力を入れ、工賃向上に向けた取り組みとして、惣菜製造を行ない始めています。しかし、製造に追われるあまり、客層やニーズ合わせた商品開発へ進められていないのが現状でした。食品衛生管理と安全性に留意した環境を改めて整え、利用者さんの工賃へとつなげていけるよう製造へと進んで取り組んでいきたいと考えています。

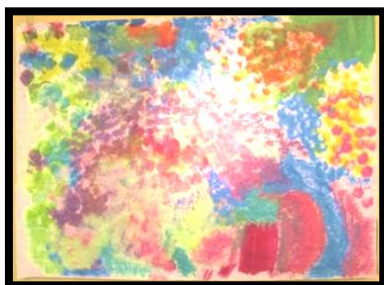
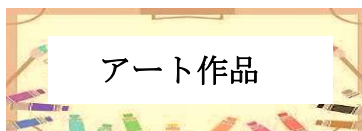
日中活動として、創作を進める上で、テーマに応じた作品を完成まで創り上げる芸術活動の難しさや、活動内容を外部へ啓発する活動や取り組みへの周知に課題を感じました。より、多くの人へ芸術作品を知って頂く為にも、販売に向けたアート製品の商品化を今後、少しずつ進めていきたいと考えています。個々に合った作業分担の創造、商品化の創出、販売への価格設定など様々な課題が多く、困難を極めています。展示会への積極的な参加や販売などを通して、利用者さんの作品をより多くの方達に観て頂ける様、取り組んでいけたらと考えています。

就労事業報告

■事業班名 にこにこ・さんさん

1. 取組みの概要

日中の創作活動では、昨年に引き続き、1階アトリエに展示する作品制作にテーマを設け、3ヵ月毎の入れ替えへと取り組んでいます。アートブリュット制作や油絵、ステンドグラス制作など、個人作品から共同制作など、1点ずつ心を込めて皆で取り組んでいます。また、今年度は利用者さんのアート制作を1つの製品にする試みを行ない、岩見沢イオンで行なわれた合同即売会で販売する事が出来ています。また、仲間の事業所から絵画の受注を受けるなど、作品をより多くの方々へ観て頂く機会が少しずつ増えています。



水彩画

アート製品の携帯カバーケース

アート作品の木製クリップ

食品製造班にここには、利用者さんの昼食製造と今年度より新たな取り組みとして、振興局5階にあるそらかぜ食堂へ納品する小鉢やハンバーグの製造を行なっています。

下請加工事業班さんさんでは、館内清掃と特別養護老人ホームこぶしの清掃委託、オーラルピース(歯磨き粉)の販売、そらかぜ食堂の販売業務委託に1年間取り組んでいます。

館内清掃では、昨年に引き続きアトリエや作業場の清掃、施設周りのごみ拾い等を行っています。こぶし清掃では、利用者さんの頑張りが評価され、より清掃に力を発揮出来る様にと、今年度こぶし様より新たな清掃器具を用意して頂く事も出来ています。これにより、清掃メンバー1人ずつの意欲となり、自分の役割や責任感を高めながら日々作業に取り組んでいます。

そらかぜ食堂の販売業務委託では、あかるいどうから4名の利用者さんが販売と製造、接客に携わっています。日々、時間に追われて忙しい中でも笑顔を絶やさず、接客や調理へと自分の役割を1つずつこなし、懸命に取り組まれています。

昼食・惣菜製造



事業所内の昼食・惣菜製造の様子



そらかぜ食堂で働いている利用者さん



そらかぜ食堂で
販売している
販売小鉢

こぶし清掃



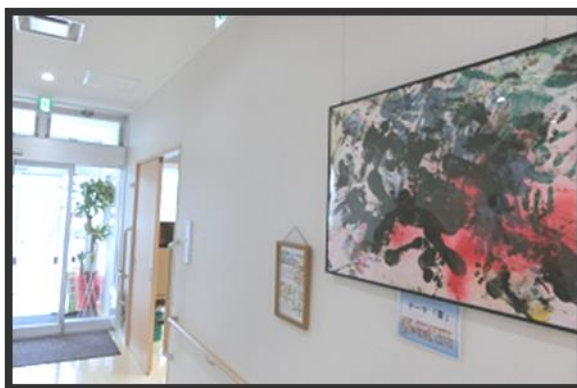
老人福祉施設内
の廊下清掃風景

館内清掃



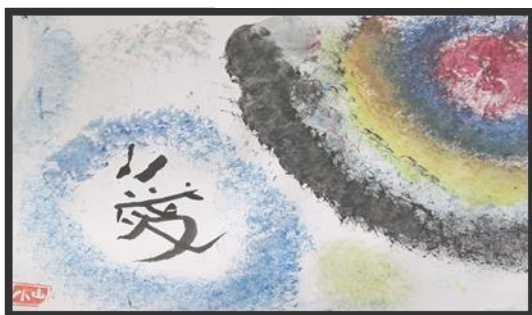
2. 成果

活動（製造、創作活動、清掃）を通じて、就労意欲や芸術作品への意識の高まりを感じ、社会的ルールや作業への取り組みの姿勢を身に付けています。創作活動では、9月上旬に行なわれた芸術祭のみんなアートや、12月上旬岩見沢駅構内で行なわれた「ハート&アート展」に作品を出展しています。また、作品を目にした他事業所から作品の依頼を受け、注文に応じた作品を製作し、納品を行なっています。更に、親御さんから作品購入の声が上がり、絵画の販売を行なっています。



新冠ほくと園 サポートセンター「えましあ」に飾って頂いている作品の様子

展示テーマ：水彩画



展示テーマ：アールブリュット



展示テーマ：ステンドグラス



3. 課題

利用者さんのこだわりや作業内容、ニーズに応じた個々の環境整備や治具の整備が今後
も増やしていく必要があると感じている。今年度は、アトリエに飾る制作を主にし、販売
や注文による製作は僅かであった為、来年度は制作した製品を継続して製造、販売出来る
ような取り組みを行ない、よりアートに従事した活動へと広げ、啓発活動へと繋げて行き
たいと思います。

4. データ

下請加工事業（業務委託）

利用者実人数：10名

生産活動売上：2,819,600円

工賃還元額：2,819,600円

製造販売事業・下請加工事業（にこにこ・さんさん）

利用者実人数：11名

生産活動売上：4,196,115円

工賃還元額：2,405,600円

平成27年度 歩〜夢 事業報告

1. 27年度事業の総括

平成27年度の運営については、昨年度からの課題であった新住居の開設について4月に1棟、9月に1棟を予定通り開設することができました。

開設に伴い、宿泊体験の受け入れが男性、女性ともに受け入れが可能になったことで毎月の利用の希望も増えました。

今年度は高等養護学校の現場実習の際に、生活の場と日中の活動をセットで経験したいという希望が増え、宿泊体験事業が活用されました。

また、他事業所を通所利用し、生活の場のみ歩〜夢を利用されている方や企業就労している方が、将来のことも考え宿泊体験を希望するなど様々なケースの相談が多く来ていました。

しかし、28年度以降については、新規グループホームの開設の要件が変わり、多額の費用や設備を要する為、今後の住居の増設については多少の難しさを感じています。

利用状況については、新規利用者6名入居、長期入院の為1名が退所されました。

支援の面では、誕生日の方の希望を聞き取り、できる限り希望に応えられるように企画をし、お祝いをしました。長期の休みについては、旅行などのイベントを企画し、にぎやかに行ないました。また、小規模の個別の旅行企画も行ない、利用者さんたち主体で行き先、予約、企画までを決めて頂き、職員は付き添いのみでの旅行を行ないました。新しい取り組みとしては、ティーボールのチームを結成し、現在月に2回ほど教育大学の学生さんと一緒に練習を行なっています。28年11月に開催される札幌ドームでの大会に向けて頑張っているところです。

今年度も余暇活動の充実と、一人一人個別の暮らしの質の向上に努め、人権擁護や虐待防止に一層取り組み、日中活動との連携を重視して事業を行ないたいと思います。

2. 実施事業

共同生活介護一体型事業所（合計定員37名）※宿泊体験4名含む

春が来た荘	定員5名	現員4名	
夏色荘	定員5名	現員5名	（宿泊体験 1名）
秋いろいろ荘	定員5名	現員3名	（宿泊体験 1名）
冬暖か荘	定員5名	現員3名	（宿泊体験 1名）
いなほが実り荘	定員4名	現員4名	
ハラダハイツ	定員2名	現員2名	
コーポハラダ	定員2名	現員2名	
桜なごみ荘	定員4名	現員4名	
もみじ色づき荘	定員5名	現員4名	（宿泊体験 1名）



桜なごみ荘



もみじ色づき荘

3. 平成27年度の利用状況

※定員35名（宿泊体験4名：4月～8月）定員37名（宿泊体験4名：9月～3月）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	33	34	34	37	37	37	37	33	34	34	35	39	
開所 日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366
延利用 回数	885	840	853	885	870	849	897	871	898	873	857	940	10,518

※平均実利用者数 28.8名（小数点第2位以下切り上げ）

※平成27年4月から10月までに男性3名 女性3名入居

平成28年1月末で秋いろいろ荘の女性1名退所

前年にも増して、長期の帰省をされる方が少なくなって来ています。ご家庭との連携を念頭において、今後も一層余暇時間の充実など生活支援の重要性が増してくるものと思われます。

※宿泊体験

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	3	4	3	4	6	6	6	1	2	2	4	8	
開所 日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366
延利用 回数	46	32	20	20	28	18	21	2	7	4	10	21	229

今年度は住居も増え、女性の宿泊体験の利用が可能になったことから、昨年度と比べ利用数が増加してきた事が挙げられます。また宿泊体験を経て正式な入居に切り替わった方もいました。

今年度は、ご家族や学校がご本人の将来を考えた宿泊体験の相談が多かったように感じられました。現在は、空き部屋が限られていることから、対応できるニーズに限りがある為、すべての相談ケースに応えることは難しく、今後の課題になると思われます。

4. 取組みの概要

■利用者支援

今年度、南町のエリアに加え市内中心部に住居を2棟増やしたことで、大まかに2つのエリアに分けて効率よく支援ができるように生活環境が整いました。地域の中には空知の風を知っていてパンやおにぎりを購入してくださっている方もいる反面、障がいのある方だけで生活をしていることが不安だと感じている住民もいましたが、冬の除雪の際にご近所の除雪をお手伝いさせていただき、挨拶などを行なうことで、少しずつではありますが、理解をいただけたのではと感じました。地域の方に受け入れてもらうには、まだ時

間がかかることと思いますが、積極的に町内活動に参加して、地域の一員となれるように支援していきたいと思います。



除雪



町内会ゴミ拾い



■権利擁護

前年に引き続き、世話人を含むすべての歩〜夢スタッフを対象に、権利擁護や虐待防止についての内部研修を複数回実施しました。また、自分たちの支援が良いか悪いかだけでなく、日々行なっている支援内容を見直し、判断のつかない支援についても振り返り考えていけるよう専門家としての知識や意識の向上に努めています。

定例の会議内で、ニュースなどで報じられた虐待の事例、福祉制度の情報などを施設長より話され、パートの世話人に至るまで一定の学習の機会を持たせたと思います。

■苦情解決委員会

今年度の苦情件数は0件、要望が0件となっています。利用者さんとの日常の会話のやり取りの中で、細かな要望や相談の対応を行なっていましたが、注意の仕方や言葉の難しさなどから、利用者さんが納得のいかない言葉があると不快に思ってしまう、相談につながるケースがありました。また、要望や相談の中では多いのは、共同生活の中での他者の生活音や、行き違いによるものも多いと感じます。少人数とはいえ、家族以外の方たちとの生活にはストレスを抱えてしまう方もいますので、早期に気づき対応をしていくことや、常に話し合いや相談ができる姿勢が大切だと感じました。

■感染症対策

感染症対策としては、今年度もインフルエンザの予防接種を行ないましたが、3名の方がインフルエンザを発症しました。てんかんの持病がある方もいた為、親御さんと確認をしながら対応を行なっています。

うがい、手洗いの声掛けや予防接種、加湿・換気などの対策のおかげか、グループホーム内で大きく流行することはありませんでした。今後も継続して行ない、食中毒やその他の衛生面についても対策を講じていきたいと思います。

■災害対応・事故対応

6月3日に、大雨が降り南町のGH付近の川の水かさが増した為、数年前の洪水を教訓に早期の自主避難を行ないました。以前から取り組んでいる非常用持ち出し袋を個々で準備していた為、



自主避難

慌てることなく対応することができ、避難場所も法人本部を使用したため、その後の親御さん対応も迅速に連絡をすることができました。



火災想定避難訓練



地震想定避難訓練

今年度の避難訓練については火災想定だけでなく、地震災害にも目を向け家の中の危険なもの、家具等の固定や避難をするタイミングなど課題を確認しながら行ないました。

■年間行事

平成27年度	内 容
4月16日	誕生会（各月行っている）
4月29日	ハイジ牧場 三井アウトレットモール買い物
5月5日	バーベキュー
6月20～21日	いなほが実り荘 旅行
7月26日	利用者研修会
8月7～8日	お盆の増毛旅行
8月13～14日	西町町内会子ども盆踊り
8月15日	お盆バーベキュー
9月5日	みんなあ〜と見学
9月26日	雪の聖母園祭
9月27日	あかとき学園祭
10月3日	雨竜暑寒の里 暑寒祭
10月10日	空知のチカラ
10月30日	利用者交流会
11月3日	ティーボール観戦
12月11日	ティーボール練習（月2回）
12月20日	避難訓練（地震災害）・歩〜夢忘年会
1月1日	初詣外出
1月2日	カラオケ・初売り
1月3日	外食 買い物
1月15日	厄払い
3月20日	避難訓練・防災講話・消火器訓練



お盆の増毛旅行



教育大学の体育館でティーボール練習



27年度の余暇活動としては、11月に「ティーボール北の甲子園」が札幌ドームにて開催され観戦しに行きました。初めて見たスポーツではありましたが、同じ障がいのある方も多く参加されていた事から、利用者さんからも「やってみたい」と興味がある声が聞かれました。さっそく道具を購入し、体育館を押さえ、余暇活動の一環として始めてみたところ、大会に向けて頑張りたいとの声が聞かれました。現在は、北海道教育大学岩見沢校の先生と学生さんも協力していただけることになり、月に2回ほど教育大学の体育館をお借りして練習に励んでいます。



西町町内会の子供盆踊りで出店をしました。



誕生日会は外食です



GWはハイジ牧場に行ってきました。



空知のチカラ のど自慢参加

その他には、仲の良い仲間同士で旅行に行きたいと相談があり本人さん達主体で企画立案し実施をしました。年々個々の利用者さんからの個別の要望などが増えてきて自主性も感じられてきました。

全てをかなえることにはまだまだ難しさを感じますが、一步一步自分達の願いがかなえられるような支援をしていきたいと思いました。



平成 27 年度 歩〜夢 忘年会 2 次会はカラオケにいきました。



歩〜夢恒例行事バーベキュー企画を皆で準備します

あかとき学園祭のアート展を鑑賞

■諸会議

- ・法人全体会議・・・定例で月 1 回実施。
- ・事業所会議・・・全体会議のほかに月 1 回実施。主に常勤の生活支援員を中心に、各利用者さんの支援上の課題や、設備、運営の仕方などの協議を行ないました。
- ・世話人会議・・・月 1 回実施。世話人を中心に、法人全体会議や事業所会議での決定事項の周知や、個別に抱える課題の共有、宿泊体験や特に注意が必要なケースについての話し合いを行ない、支援がブラインドにならないように努めました。
- ・個別支援計画策定会議・・・個別支援計画作成時に 1 ケースごとに実施。計画原案をもとに支援内容等について検討しました。
- ・ケース会議・・・日々の利用者支援について検討を行ない、支援を実施しています。
- ・企業就労担当会議・・・現在企業就労されている方の定着支援について情報を共有し、支援の方向性について話し合いを行なっています。
- ・給食会議・・・各事業所担当で翌月の献立について調整をしています。

■健康管理

岩見沢市より人間ドックやがん検診の対象となった方が数名いましたので、定例の健康診断の他にも実施しています。再検査が必要な方などのデータを嘱託医に診て頂き、相談をさせていただきました。今年度、体重増加や血圧が高めで再検査を行なった方が多く、毎日血圧を測り日々の状態を確認し対応をしています。今後、どのような診察等が必要かアドバイスに沿って専門の病院に通院し検査を行なっていきます。

結果としては、大きな病気の方は居ませんでしたが、徐々に高齢期に向かわれている方も多くなってきたため、健康維持への取り組みや検査内容を変更していくなどして、年齢や体調に合った検査を考えていく必要があると思いました。

■支援記録

今年度は、健康診断などの結果から健康面に関する記載が増えたことや、住宅が増えたことで、全体日誌の記録や引継ぎが一層重要な支援情報であることを再確認しました。記載内容をエリアごとに分けたことで、確実に記録が残せ、情報共有がより確実になるように作成を行ないました。

また、日中活動との連携の為、連絡帳を用いて生活の様子や体調の変化などについて記載をしています。世話人も時間を取り連絡帳を読むことで、日中活動の様子を把握することができ、会話の幅も広がることができました。

ご家庭とのやり取りについては、通常の連絡等の他、家庭用の連絡帳を用いて確認事項や、日々の様子について全員とまでは言えませんがご連絡をさせていただいています。

■職員研修

内部研修については、定例の世話人会議の中で、主に権利擁護や障がいについて、危険予知訓練や支援の考え方について話をしていきました。

その他は法人の研修計画に基づき研修参加を進めています。

参加した主な外部研修	内容
福祉サービス等初任者研修	福祉サービスの基本理念について
コーチングセミナー	個人の組織に成長を目指す
メンタルヘルス講習会	アンガーマネジメント研修
北海道知的障がい関係支援員研修	グループワークコミュニケーション
全道知的障がい関係職員研究大会	知的障がい者施設の中・長期展望
空知知的しょうがい福祉協会 職員研修Ⅱ	自閉症者への支援のあり方
北海道知的障がい福祉協会医療・栄養士セミナー	高齢者の栄養管理 精神疾患をお持ちの方へのケアについて
空知知的しょうがい福祉協会地域支援スタッフ研修	世話人の役割について
防災担当者ミーティング	障がい者施設での災害対策
空知知的しょうがい福祉協会新任研修	福祉事業所職員の資質

■施設整備状況

火災防止の観点から、ガスコンロを使用しているグループホームを順次必要な個所から、IHコンロの設置に切り替えを行ないました。

平成27年度 地域生活支援事業（楽らく・そらなび） 事業報告

1. 27年度事業の総括

岩見沢市より指定を受けて実施している日中一時支援事業（楽らく）は、美唄市、三笠市、栗山町と委託契約をし、主として土曜日午後の預かり支援の時間を活用し、様々な余暇活動を実施しました。その他ご家族不在時の日中における一時的なご本人への支援も行なっています。指定特定相談支援事業（そらなび）は、空知の風の利用者さんの他、他法人を利用されている方の計画相談を行ないました。

2. 実施事業

- ☐ 日中一時支援事業 定員15名
☐ 指定特定相談事業

3. 平成27年度の利用状況

■ 日中一時支援事業 楽らく

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	24	29	25	23	31	20	24	19	28	23	28	22	
延利用回数	80	82	75	72	96	59	90	58	78	73	87	79	929

土曜午後の時間を活用した余暇支援を年間50回実施しました。契約者数も増加しています。

■ 指定特定相談事業 そらなび

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	12	3	3	2	0	3	3	0	0	3	1	10	40

空知の風の利用者さんが第三者の相談事業所にて相談を引き継ぐこととなり、件数は昨年度より減少しています。

4. 取組みの概要

■ 日中一時支援事業 楽らく

新メニューとして、女性利用者さんを対象に「メイクアップ教室」を開催しました。外部講師の方に助言してもらいながら、女性の「美」について学ぶ良い機会となりました。人気メニューのカラオケやボウリングも隔月で開催し、楽しい外出となっています。



講師の平田さんと記念写真。

■指定特定相談事業 そらなび

年度後半に法人外の利用者さんの計画をそらなびで引き継ぐケースもあったほか、空知の風の利用者さんの計画相談を他事業所に引き継いで頂く動きもありました。新しい相談員さんとの出会いは不安も大きいと思われたため、可能な限り相談事業所の特徴や相談員さんの人となりになるべく丁寧に説明する様に心がけながら進めました。

5. 成果

■日中一時支援事業 楽らく

メイクアップ教室の実施をきっかけとして、これまでの「遊び」に主眼をおいたメニューとは別に、「学び」のメニューも利用者さんの発達の場面になることへの気づきとなりました。利用される方の余暇の充実に向けて、色々な知識を得るためのメニューを。実施にあたっては難しい勉強という印象とならない様に、小イベントを盛り込みながら楽しく学べるメニュー立案に努めます。

■指定特定相談支援事業 そらなび

他の相談事業所への引継ぎも含めて、福祉サービスの利用を概ね円滑に援助することが出来ました。他法人の事業所を利用される方の意向の聞き取りについても、ご本人の思いを尊重しつつ、事業者との支援のすり合わせもスムーズであったと感じています。

6. 課題

■日中一時支援事業 楽らく

26年度から引き続き、人気メニューへの利用の集中が課題として挙げられます。時には外出先の設備、体制によっては円滑な実施が難しくなることもあり、実施回数を増やして分かれて参加して頂く等の工夫が必要と思われれます。希望される方に出来るだけ参加して頂ける様に28年度に向けて調整と検討を重ねていきます。



人気メニューのボウリングは
今年度も変わらず盛況でした

■指定特定相談支援事業 そらなび

安定して対応出来る範囲で、可能な限り他法人の計画相談を担ってきていますが、岩見沢市や近隣市町村の利用者さんから寄せられる要望に少しずつ応えることが出来る様に、計画的に進めていきます。